

国内観光産業における年代別・地域別 消費動向に関する分析

石井太研究会

慶應義塾大学 経済学部 経済学科 3年23組

学籍番号：21805233

小澤 亮太

概要

研究目的：

日本国内における観光産業について国内旅行者の居住地、主目的地、年代などのデータを分析し、それらの傾向について考察すること

※ 新型コロナウイルス影響は本研究では触れない

- (1) 都道府県ごとの人口推移の違いによる
旅行の主目的地における消費額に及ぼす影響の違い
- (2) 年代ごとの旅行の主目的地における年齢階級別消費額の違い

研究背景

日本の人口減少が課題

- ・ 以前より緩やかになっているが、減少傾向
- ・ 出生数の減少も続く見込みで、少子高齢化も課題

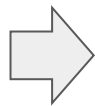
※ 国立社会保障・人口問題研究所（2017）の将来人口推計より



人口変動が観光産業経済に影響を及ぼす可能性
都道府県別人口数、年齢構成比の観点から考察

先行研究調査

- ・ 年齢別人口構成比が観光消費額に与える影響
- ・ 旅行者数・観光消費額の将来予測



先行研究では単純に日本の将来人口推計減少を反映しているが
複数要素を組み合わせて推計、考察する必要がある

データ分析方法

- 旅行者数・旅行消費額の将来推計
 - 国土交通省観光庁資料^{*7}より、
国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計^{*3}データから導出可能
- 居住地別・主目的地別 旅行者数・観光消費額
 - 国土交通省 観光庁. 旅行・観光消費動向調査^{*1,2}
- 年齢階級別 旅行者数・観光消費額
 - 国土交通省 観光庁. 旅行・観光消費動向調査^{*1,2}

データ分析方法

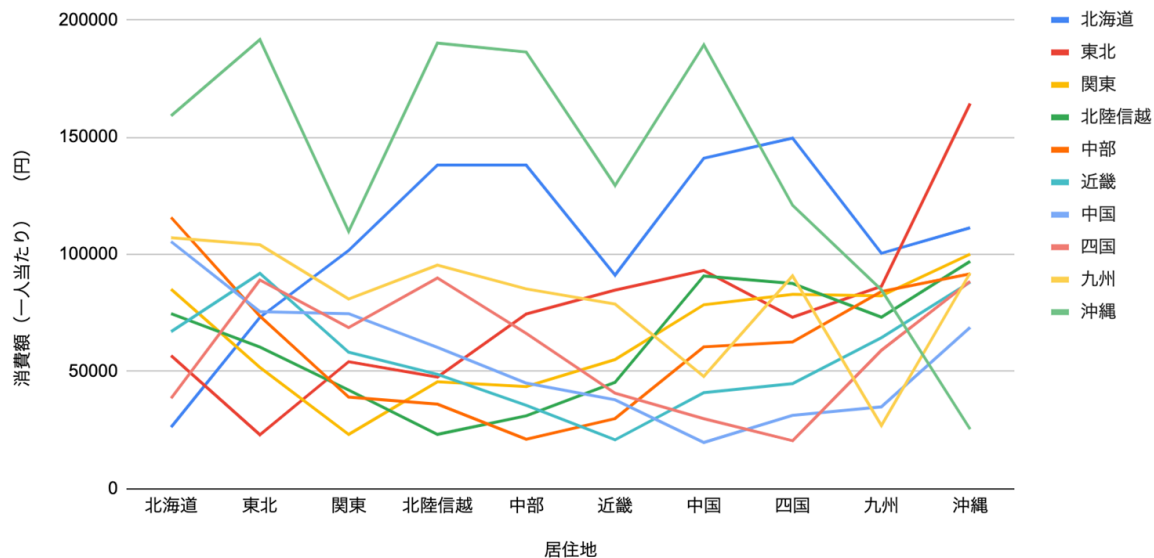
- 2010年、2019年のデータから各値の変化率を算出
- 2045年の人口推計を利用し、変化率に重み付け



2045年の旅行者数・観光消費額推計

結果・考察

国内旅行居住地別 主目的地における一人当たりの消費額（2019）



居住地域：北海道・沖縄地方

主目的地が居住地域外の場合に、消費額が大きい

主目的地：北海道・沖縄地方

どの地方に居住している場合でも、消費額が大きい傾向

図1. 国内旅行居住地別 主目的地における一人当たりの消費額（2019）

出典：国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）

結果・考察

国内旅行の主目的地別 居住地区分消費動向（2019）

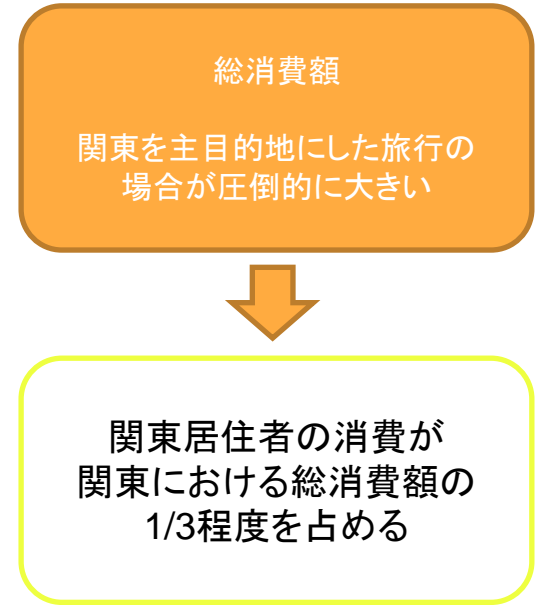
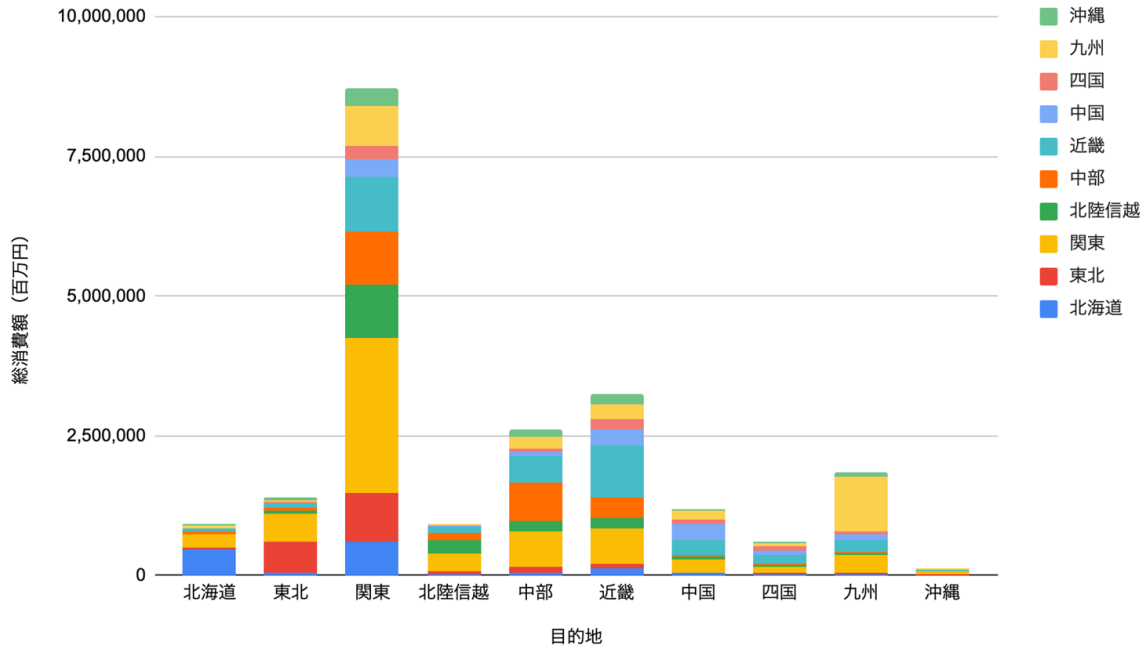


図2. 国内旅行の主目的地別 居住地区分消費動向（2019）

出典：国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）

結果・考察

居住地別 主目的地ごとの旅行者数（2019）

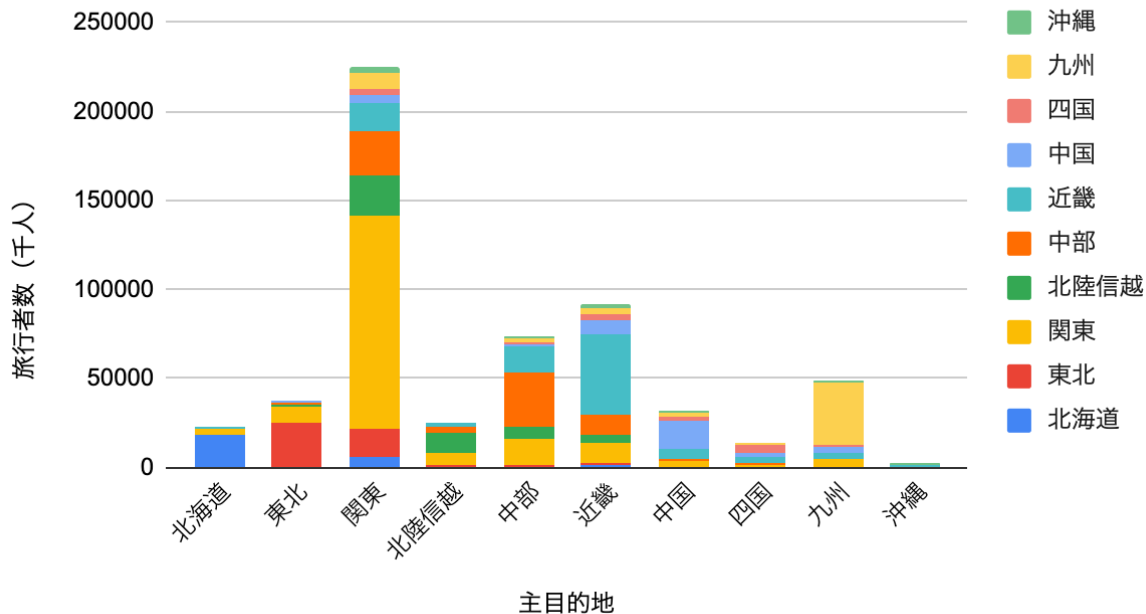
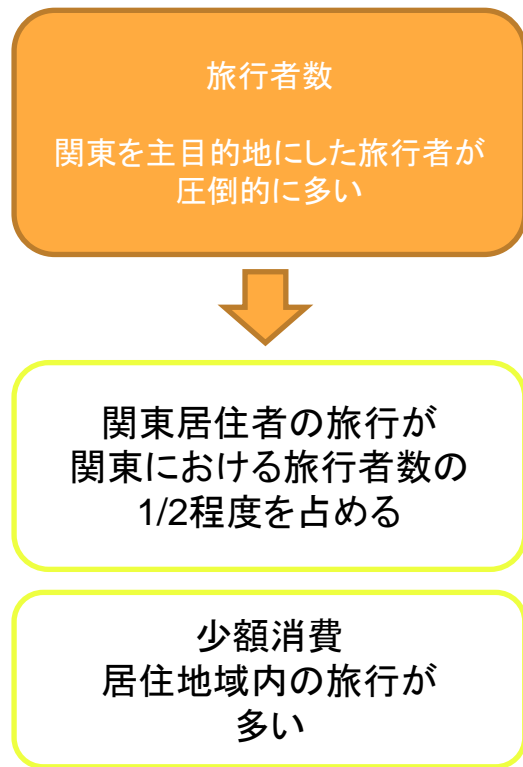


図3. 居住地別 主目的地ごとの旅行者数（2019）

出典：国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）



結果・考察

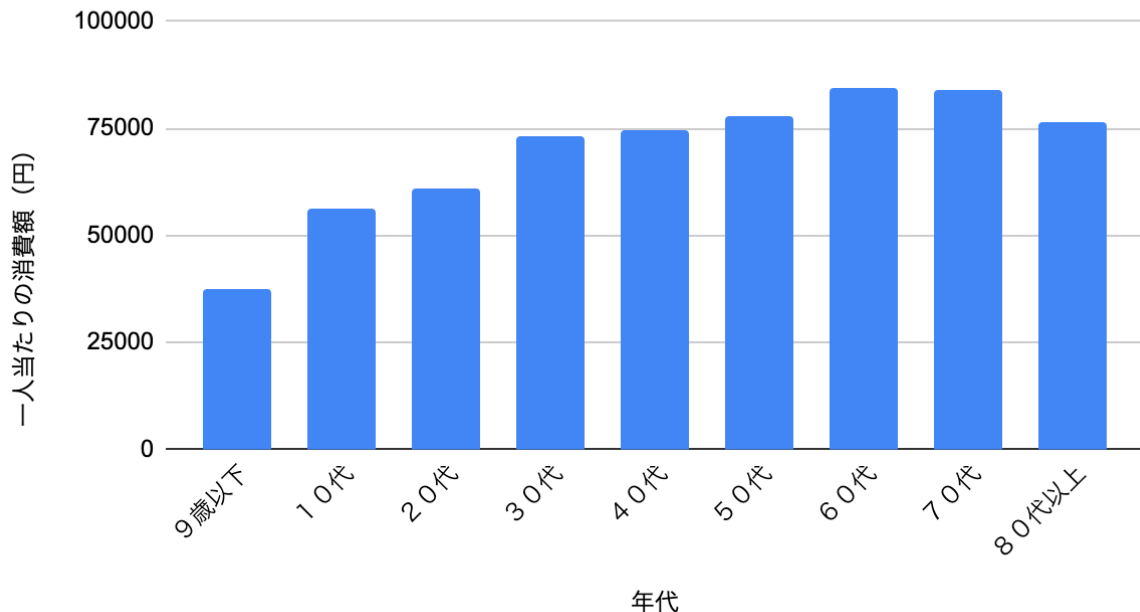
表1. 国内旅行消費総額と年代別人口（2019年）

	年代別人口 (千人)	年代別延べ旅行人数 (千人)	国内旅行消費額 (百万円)
9歳以下	9,908	27,422	1,032,451
10代	11,220	23,954	1,342,572
20代	12,599	42,365	2,582,617
30代	14,397	44,650	3,267,810
40代	18,577	50,418	3,757,820
50代	16,181	47,645	3,701,188
60代	16,426	39,594	3,335,225
70代	15,713	25,845	2,169,215
80代以上	11,205	9,732	742,296

出典：国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）

結果・考察

年代別 国内旅行における一人当たりの消費額 2019年



延べ旅行者数の少ない
80代以上

一人当たりの消費額は
下がらない

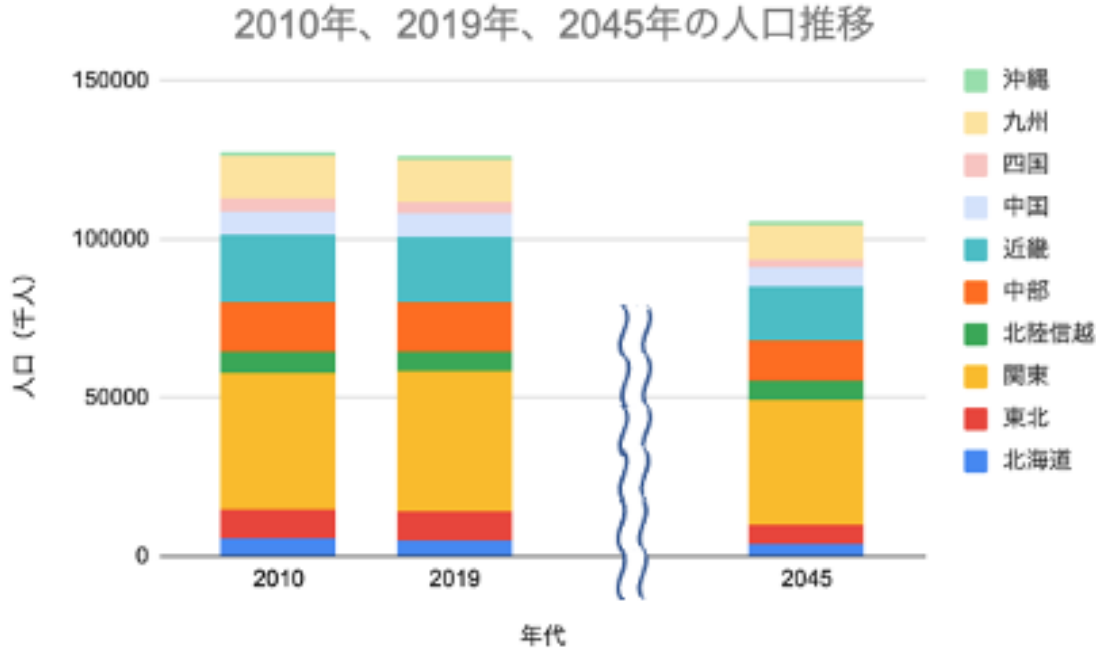


今後の観光課題解決策を
考えるうえで
考慮に入れる必要がある

図4. 年代別 国内旅行における一人当たりの消費額 2019年

出典：国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）

結果・考察



国立社会保障・人口問題研究所
(2018)より
人口は減少傾向にある



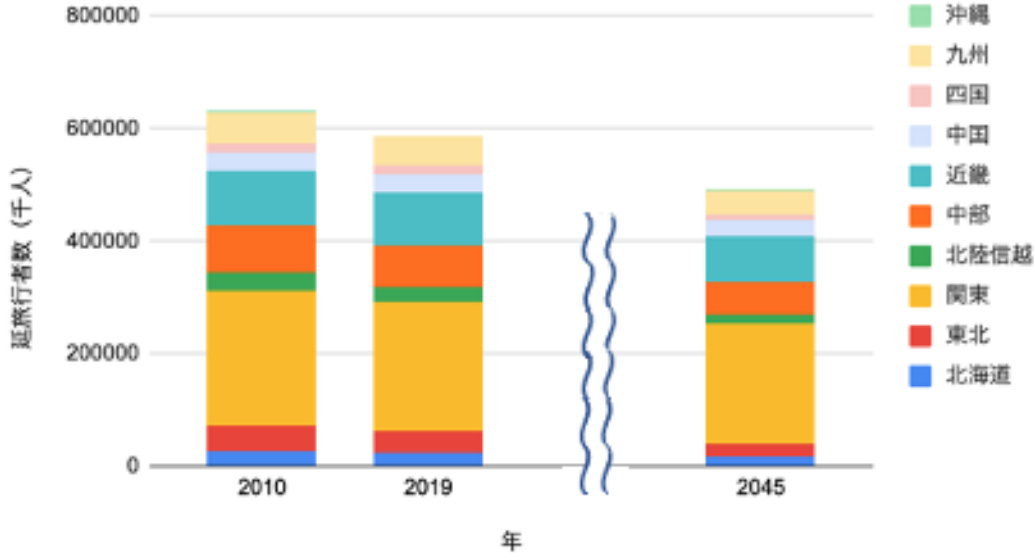
地方によって
大きな減少率の差はない

図5. 2010年、2019年、2045年の人口推移

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）

結果・考察

2045年における居住地別旅行者数推計



人口減少により
旅行者数も減少すると予想



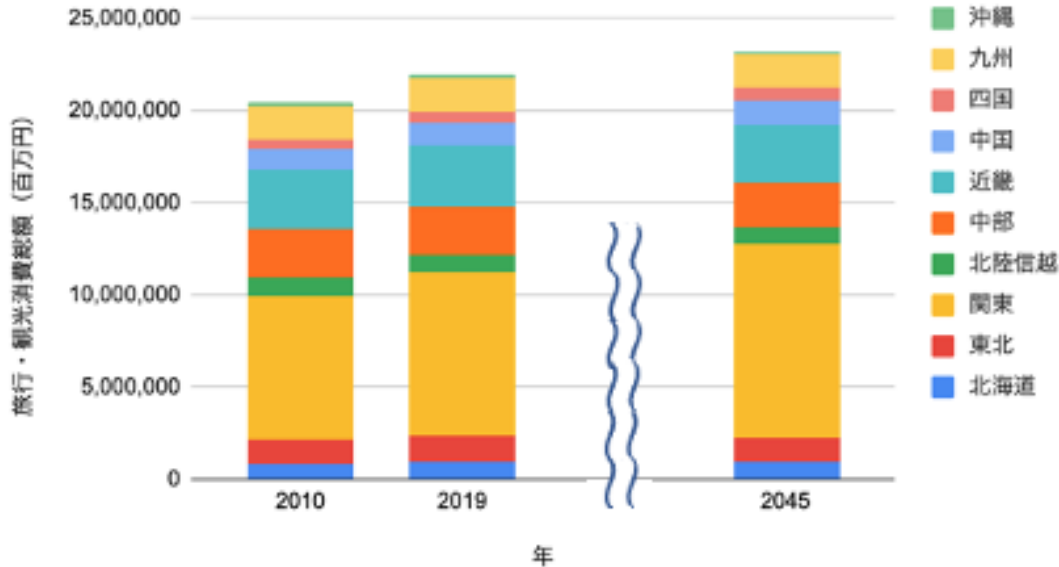
地域による
減少率の差はほとんどない

図6. 2045年における居住地別旅行者数推計

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）、
国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）

結果・考察

2045年における居住地別旅行消費総額推計



旅行消費総額は
増加傾向にある

今後も増加傾向にあると推測



ただし、人口減少により
伸び幅は小さくなる

図7. 2045年における居住地別旅行消費総額推計

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）、国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）

結果・考察

表2. 2045年における地方別人口推計による旅行・観光消費額と旅行者数の推移予測

地方/年代	旅行・観光消費総額（百万円）			延旅行者数（千人）			一人あたりの旅行・観光消費額（円）		
	2010	2019	2045	2010	2019	2045	2010	2019	2045
北海道	847932.88	939069.00	991160.22	28797.50	24360.00	16153.37	29444.67	38549.63	61359.33
東北	1368133.85	1408750.00	1283151.05	44995.03	38755.00	25511.98	30406.33	36350.15	50296.01
関東	7751562.05	8866730.00	10507799.72	236976.74	229764.00	212217.27	32710.22	38590.60	49514.35
北陸信越	978245.35	961185.00	874912.33	32730.08	26161.00	16621.29	29888.27	36741.14	52638.05
中部	2664754.63	2643896.00	2415252.21	84846.58	75019.00	56378.28	31406.74	35243.02	42840.12
近畿	3217157.61	3285883.00	3159890.17	97968.99	93396.00	80282.85	32838.53	35182.27	39359.47
中国	1064163.08	1198640.00	1333548.11	32461.79	32320.00	29619.54	32782.02	37086.63	45022.58
四国	539228.35	613148.00	668233.26	14855.34	14079.00	11345.19	36298.61	43550.54	58900.13
九州	1798015.96	1871168.00	1843352.96	54319.60	51006.00	42467.84	33100.69	36685.25	43405.85
沖縄	206243.49	142726.00	78630.34	3644.14	2243.00	978.26	56595.88	63631.74	80377.50

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）、
国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2010年1～12月期 集計表（確報）、
国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）

結果・考察

表3. 2045年における年代別人口推計による旅行・観光消費額と旅行者数の推移予測

	人口 (千人)			延旅行者数 (千人)			国内旅行消費総額 (百万円)			一人当たりの国内旅行消費額 (円)		
	2010	2019	2045	2010	2019	2045	2010	2019	2045	2010	2019	2045
9歳以下	10959.16	9908.17	8487.32	45,273.65	47,714.00	47,716.47	820815.00	1032451.00	1032453.47	18130.08	21638.32	21637.25
10代	12008.23	11220.33	8749.16	36,313.25	42,981.00	42,983.67	1081721.69	1342572.00	1342574.67	29788.62	31236.41	31234.53
20代	14417.61	12598.75	9364.22	76,669.87	72,203.00	72,205.25	2350184.07	2582617.00	2582619.25	30653.30	35768.83	35767.75
30代	18245.00	14397.08	10417.39	112,918.68	80,861.00	80,862.85	3411498.02	3267810.00	3267811.85	30211.99	40412.68	40411.78
40代	16478.00	18577.00	11231.64	98,493.97	95,248.00	95,250.45	3033812.09	3757820.00	3757822.45	30802.01	39453.01	39452.02
50代	16674.00	16181.42	11488.31	92,813.58	90,336.00	90,338.37	3288166.65	3701188.00	3701190.37	35427.65	40971.35	40970.30
60代	17963.90	16426.08	11803.99	104,079.99	79,953.00	79,955.02	4037377.11	3335225.00	3335227.02	38791.10	41714.82	41713.79
70代	12739.70	15712.50	12148.01	50,075.26	57,499.00	57,501.84	1862657.07	2169215.00	2169217.84	37197.15	37726.13	37724.32
80代以上	7990.40	11204.75	12825.79	14,957.55	20,306.00	20,309.37	549205.54	742296.00	742299.37	36717.62	36555.50	36549.59

出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）、

国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2010年1～12月期 集計表（確報）、

国土交通省観光庁 旅行・観光消費動向調査 2019年1～12月期 集計表（確報）、

“Population Pyramids of the World from 1950 to 2100”. PopulationPyramid.net, 2019, <https://www.populationpyramid.net>, (参照 2020-11-18)

結論

- 旅行・観光消費額、延旅行者数
 - 国内旅行消費額（総額）の伸びが硬くなっている
 - 延旅行者数は減少している
 - 人口減少に起因
 - 一方で、一人当たりの旅行・観光消費額は増加している

結論

- 人口変動による観光消費額・旅行者数への影響
 - 世代別人口構成比の変動
 - 高齢者層は一人当たりの消費額が大きく、旅行者数が少ない
少子高齢化が進めばその傾向が強まる
 - 地域別人口の変動
 - 遠方へ旅行に行く場合、消費額は大きく旅行者数が少ない
 - 居住地域内での旅行者数が多く、一人当たりの消費額は小さいが
主目的地における消費額のうち占める割合が大きい



より確からしい算出式の導出
過去データによる将来推計の実施

参考文献

1. 国土交通省 観光庁. 旅行・観光消費動向調査. 2011, 2010年1～12月期, 集計表（確報）.
2. 国土交通省 観光庁. 旅行・観光消費動向調査. 2020, 2019年1～12月期, 集計表（確報）.
3. 国立社会保障・人口問題研究所. 日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）. 2018, 概要.
4. 国土交通省 観光庁. 観光白書. 2020, 令和2年版.
5. “Population Pyramids of the World from 1950 to 2100”. PopulationPyramid.net, 2019, <https://www.populationpyramid.net>, (参照 2020-11-18)
6. 掛江 浩一郎. 国内旅行市場拡大の可能性～身体が衰えても旅行できる環境整備～. 国土交通政策研究所報, 第55号, 2015.
7. 国土交通省 観光庁. 説明資料. 2014, <https://www.mlit.go.jp/common/001028709.pdf>, （参照 2020-11-18）.